



足場して

城修繕や雲の峰

青嵐

洲本城天守閣



第十四回
永田青嵐顕彰
全国俳句大会
入選句集

◎募集期間
令和4年6月～9月

◎表彰式
令和5年2月12日

主催/一般財団法人淡路島くとうみ協会 後援/兵庫県 洲本市 南あわじ市 淡路市 拓殖大学

開催趣旨

永田青嵐顕彰全国俳句大会は、淡路島が生んだ偉人永田青嵐（本名・永田秀次郎）の功績を全国に発信し、俳句文化を通じたふるさと意識の高揚や、交流人口の増加による淡路島の活性化を図ることを目的として、平成二十二年度から実施しており、今回で十四回目になります。

また、大会では、「一般の部」に加え、「学生（小・中・高校生）の部」を設け、淡路島内の学校のみならず島外の学校からも投句を募集し、全国の子供達に永田青嵐を広く周知するとともに、俳句を通じて日本の風土や文化に触れる機会とし、心豊かな人づくりを目指しています。

そのほか、俳句の裾野を広げるため、初心者のための「俳句入門講座」や、島内の小・中・高等学校を対象に「俳句出前講座」、淡路島の観光地等を巡って俳句を詠む淡路島吟行バスツアーも実施しております。

永田青嵐

ながた せいらん

一八七六一一九四三

兵庫県三原郡（現南あわじ市）生まれ。

本名、秀次郎。一八九九年第三高等学校（現京都大学）法学部卒。旧兵庫県立洲本中学校長、三重県知事、貴族院議員、拓務大臣、拓殖大学長などを歴任。東京市長を二度務め、一九二三年の関東大震災からの復興、一九四〇年に開催予定だった幻の東京オリンピックの招致に尽力。

俳句は、三高在学中に寒川鼠骨の手ほどきを受け、後に高浜虚子に心酔。句は特別枠で随時俳誌「ホトトギス」に掲載された。代表句として「凧に追はるゝ如く任地去る」がある（永田青嵐句集、新樹社）。「震災忌吾に古りゆく月日かな」は辞世句。また、「交わりは薄くも濃くも月と雲」は、虚子の追悼句。他に「青嵐随筆集」（実業之日本社）等がある。



青嵐作「健剛實賢」

青嵐作（兵庫県立姫路西高校所蔵）
1895年旧制姫路中学校（現兵庫県立姫路西高校）を卒業した秀次郎の昭和3（1928）年の作。この「實剛健」は3つある同校の校訓のひとつとして今でも校長室に堂々たる存在感を持って掲げられています。

目次

開催趣旨、永田青嵐紹介	1
第十四回大会に寄せて	
・石村健大会会長挨拶	3
・永田秀一大会名誉会長挨拶	3
・稲畑廣太郎代表選者挨拶・賛同句	4
・選者賛同句	5
稲畑廣太郎代表選	
・入賞作（一般の部）	6
・入賞作（学生の部）	7
・佳作（一般の部）	8
・佳作（学生の部）	9
選者選	
・入選作（一般の部）	10
・入選作（学生の部）	12
・準入選作（一般の部）	15
・準入選作（学生の部）	16
俳句入門講座・出前講座	17
後記	18
大会運営委員会委員	18
淡路島内の永田青嵐句碑・歌碑	

第十四回大会に寄せて

第十四回永田青嵐顕彰全国俳句大会会長

一般財団法人淡路島くくうみ協会理事長 石村 健



この俳句大会は、淡路島が生んだ偉人『永田青嵐』の功績を広く全国に知っていただくとともに、俳句文化を通じてふるさとへの思いを高めていただくため、平成二十一年度に第二回を開催して以来、淡路島の恒例の行事として皆様に親しまれる大会になりました。これまでの皆様のご支援・ご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、コロナウィルス感染拡大防止のため、やむを得ず昨年、一昨年と表彰式中止いたしました。第十四回となる今大会は三年ぶりに開催する運びとなりました。会場の皆様にお会いできることを大変楽しみにしております。今年度は全国から、四五七五人、七六六七句の作品をお寄せいただいた中から、各賞を決定させていただきました。大会創設以来投句をいただいている全国の皆様や学校関係者の皆様、そして大会運営にご尽力いただいた先生方に対しまして、大会関係者を代表して心より感謝申し上げます。

今後も、永田青嵐のふるさとである淡路島から、島の魅力とともに日本を代表する文化である俳句の素晴らしさについて、島内外へ発信し続ける所存ですので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

本大会関係者並びに俳句愛好家の皆様の、今後ますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

第十四回永田青嵐顕彰全国俳句大会 代表選者

ホトトギス主宰 稲畑 廣太郎

この度、代表選者を務めさせて頂きます稲畑廣太郎でございます。皆様御存知の通り、昨年まで代表選者を務めておりました稲畑汀子ホトトギス名誉主宰が令和四年二月二十七日に逝去致しました。生前賜りました御厚情に対しまして心より感謝申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。本年度は息子でもあります私が心を込めて選句をさせて頂きました。大変多くの御投句の方々の中から限られた句数ではございますが、名句も多く、感動することしきりでございました。皆様の淡路島に対する思い、永田青嵐に対する思いがひしひしと伝わってきて、選もとても楽しく撈りました。今後の皆様のご健吟を心よりお祈り申し上げます。

ミサ曲に溺れてをりぬクリスマス

灯されてより聖夜ミサ動き初む

星一つ零れ聖夜の空となる

第十四回永田青嵐顕彰全国俳句大会名誉会長

兵庫県議会議員 永田 秀一



永田青嵐顕彰全国俳句大会も皆様方のご支援、ご指導により第十四回目を迎えることが出来ました。全国各地から投句をいただき、心より御礼申し上げます。

祖父永田秀次郎は、淡路島で生まれ、政界、俳界、教育界等多方面で活躍しましたが、特に俳界では、高浜虚子の指導を受け、「青嵐」の俳号で親しまれ、人情味豊かな俳句を多数残しています。淡路島を詠んだ句も多く、島内各地に句碑があります。その句碑を見る度に、祖父の故郷を想う心が、句として後世に残っていくことの素晴らしさを感じております。

また、生家近くの小高い丘に墓があり、次の歌碑が建っています。

海晴れて松風清き丘の上に

正しき者の墓と呼ばれむ

とあり、自分は一生正しいことをしてきた人だったと言ってもらえるような人生を全うしたいと念願し、詠んだものです。本大会開催にご尽力いただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

【経歴】

昭和三十三年五月二十日、兵庫県芦屋市生まれ。

母稲畑汀子の許で幼少の頃より俳句に親しむ。俳人高濱虚子は曾祖父。昭和五十七年三月、甲南大学経済学部卒業。四月合資会社ホトトギス社入社、本格的に俳句を志す。

昭和六十三年一月、ホトトギス同人、同時にホトトギス編集長就任。

平成十七年四月、ホトトギス雑誌選者及び副主席に就任。平成二十五年十月、ホトトギス主宰に就任。

令和四年、財団法人虚子記念文学館理事長及び館長。同年、社団法人日本伝統俳句協会副会長。



【著書一覽】

句集に『廣太郎句集』『半分』

『八分の六』『玉箒』『閨』

著書に『曾祖父虚子の一句』他

《選者賛同句》

春夕焼雲覆輪に暮れ泥む

正井 良徳

南あわじ市在住
「淡路風土俳句会」代表



風花やひと畝だけの蚕の畑

三根 香南

洲本市在住
「淡路若葉会」代表



入賞作【一般の部】稲畑廣太郎選

《永田青嵐大賞》

開け放つだけで整ふ夏座敷 鳥取県 棕 誠一朗

《兵庫県知事賞》

夏帽子握り祈りの列にをり 栃木県 平野 暢行

《稲畑廣太郎賞》

夕空を散らかしてゐる赤とんぼ 大阪府 阪本 彰

《拓殖大学長賞》

指揮棒の動かぬままの淑気かな 東京都 曾根新五郎

《洲本市長賞》

夏草や句帳より立つ野の匂ひ 大阪府 斎藤 詳次

あかがねの屋根に降り継ぐ花の雨

木下 圭子

洲本市在住
「ホトトギス」同人



柔らかな日差しに醸し梅薫る

高野 さち

洲本市在住
「九年母」推薦作家



二年経し島の官舎の障子貼る

鬼本 英太郎

神戸市在住
「わかば」同人



《南あわじ市長賞》

風あげてこの世の風を読みにけり 京都府 入江 清一

《淡路市長賞》

白く落ち滝壺に水藍となる 香川県 三宅久美子

《兵庫県淡路県民局長賞》

雲よりも白き百日白の風 福岡県 森永 清子

《淡路島観光協会会長賞》

遠ざかる足音を追ひ鉦叩 岐阜県 藤野 幸子

《淡路島くにうみ協会理事長賞》

水打つて昭和の風を待ちにけり 青森県 竹浪 誠也

入賞作【学生の部】稲畑廣太郎選

《永田青嵐大賞》

明 易 や 鶏 の 声 先 回 り 東京都 泉崎 果乃

〔荒川区立第四中学校〕

《拓殖大学長賞》

雪の下みんな静かにねむってる 東京都 茂呂 歩実

〔江戸川区立西之江小学校〕

《金賞》

横顔の君の瞳に遠花火 兵庫県 片山友理恵

〔蒼間高校〕

《銀賞》

金魚鉢歪む向かいの笑い顔 兵庫県 阿部 夕花

〔洲本実業高校〕

《銀賞》

息白し赤信号の長さしる 兵庫県 久米 遼

〔蒼間中学校〕

佳作【二般の部】稲畑廣太郎選

国生みの島の寝姿神の留守 兵庫県 島谷喜代孝

一島の天に積み上ぐ植田かな 兵庫県 池田雅かず

改札を出て母となる夏燕 富山県 折田 祐宇

秋日和客待ち顔の運転手 大阪府 ふじもと言葉

青天を悔いなきまでに百日紅 埼玉県 増田 信雄

笑ふたび話の変はるソーダ水 奈良県 柏木 博

螢火や我も宇宙のひとつ 兵庫県 岸本 豊子

まどろみてさめてまどろむ目向ぼこ 東京都 石橋 正通

啓蟄や深呼吸してプロポーズ 東京都 伊勢 史朗

海峡を渡る玉葱見送りぬ 京都府 森井 敏行

《銅賞》

雪が降り白い校庭はしやぎ出す 広島県 川口 凜果

〔広島市立観音中学校〕

《銅賞》

せんぶうきずつとわたしを見つづけて 兵庫県 村上 夕彩

〔神代小学校〕

《銅賞》

天の川いつてみたいな魚つり 埼玉県 中塚 彩賀

〔本庄市立藤田小学校〕

《銅賞》

夏休みあつというまに過ぎていく 兵庫県 小嶋 舞

〔洲本実業高校〕

《銅賞》

大南風学校の旗泳がせて 岐阜県 河路 るこ

〔大垣市立墨俣小学校〕

風鈴の音に風の音山の音 兵庫県 塚本 武州

松籟に踊る日の斑や浜晩夏 香川県 静川あさえ

木洩れ日の綺羅のせこぼし秋日傘 兵庫県 平尾 孝子

島の子に継ぎゆく未来新松子 兵庫県 細田三代子

稲刈に戻り来る子に鎌を研ぐ 愛媛県 浜田 邦雄

じやがいもの花や大地と生きし母 大阪府 大久保公貴

城山の高さ新涼捉へけり 三重県 西澤与志子

音もなく潮の満ちくる十三夜 兵庫県 平川紅仁子

汀子師の眼差に似て月明り 愛媛県 豊田 耕造

秋の風吊り橋の揺れ歩と合はず 千葉県 岡田 春人

佳作【学生の部】稲畑廣太郎選

にいちやんとバスケットじかんあせが出る 富山県 満田 航太

〔高岡市立伏木小学校〕

天ごくのシャワー五じかん目のプール 富山県 橋本 蒼生

〔高岡市立伏木小学校〕

登校は雨あじさいが光ってる 富山県 堂田 漣

〔高岡市立伏木小学校〕

天の川出逢って惜しむ別れかな 兵庫県 魚住美莉愛

〔志筑小学校〕

春の空心の中でつぶやいた 東京都 中村 羽希

〔多摩市立多摩第1小学校〕

秋になり自然の音色また変わる 大阪府 小原 一稀

〔大阪市立大東小学校〕

つるされた浴衣と風がおどってる 山口県 相本 紗史

〔柳井市立柳井西中学校〕

風靡く風鈴の音鳴りにけり 兵庫県 横田 将一

〔三川学院中学校〕

君といた冬の思い出あざやかで 山口県 瀬崎 望歩

〔若岡市立川下中学校〕

甲子園夢に向かって汗をかく 東京都 秋野 紗帆

〔墨田区立両国中学校〕

入選作【一般の部】正井良徳選

《優秀句》

ソナタ弾く子の指秋の灯を散らし 兵庫県 白崎ひろえ

《優秀句》

上手来て地を這ふごとく踊り出す 岐阜県 大井 公夫

六畳の四隅に潜む余寒かな 鳥取県 谷岡 幸江

除夜の鐘余韻の中へ又一打 香川県 真鍋 孝子

血ぶくれて牛の乳房の舂零る 福島県 黒澤 正行

断層のずれ蟋蟀の深き闇 兵庫県 曾我 節子

熱帯夜脳の襲まで伸びにけり 東京都 羽住 玄冬

春潮やどこんどこんと船着場 兵庫県 青に桃々

夏惜しむ望遠鏡に硬貨足し 徳島県 岡本 淳子

指先に闇を集めて風の盆 三重県 永井二紗子

ハンモックゆらゆらゆれて一人言 静岡県 鈴木 吉竜

〔静岡市立幾機中学校〕

暑い中家まで響く蟬の声 兵庫県 田浦 快唯

〔洲本実業高校〕

のびのびと虫の音色が子守歌 兵庫県 西田 妃良

〔洲本実業高校〕

蟬声や思いも僅か夢と散る 兵庫県 藤川 岳翔

〔洲本実業高校〕

思い出す金木犀と君の顔 兵庫県 武部 瑠紗

〔洲本実業高校〕

夏休み失恋をしてやせました 兵庫県 小坂 彩絵

〔淡路高校〕

流れ星願いを込めて空を見る 兵庫県 木田 愛月

〔淡路高校〕

どの山も紅葉のドレス着せられて 兵庫県 佐伯 妃菜

〔三原中学校〕

赤とんぼ夕日といっしょに空にいる 大阪府 森本 紗和

〔大阪市立大東小学校〕

夜の空ふとひかるのは花火かな 兵庫県 中舎 憐

〔洲本実業高校〕

入選作【一般の部】三根香南選

《優秀句》

牛の仔の一步一步に春の泥 兵庫県 水間千鶴子

《優秀句》

じやがいもの花や大地と生きし母 大阪府 大久保公貴

ままごとのやうな産着や小鳥来る 奈良県 中 博司

非正規の我たんぼの絮を吹く 岐阜県 安藤 昇司

残り湯に明日蒔く麦の種浸ける 香川県 森本 添水

死にたがる母の背流す冬至風呂 和歌山県 樫本 友鹿

マリーナの帆船眠る十三夜 兵庫県 今井 文代

遠き日のままの故郷銀木屋 兵庫県 渡辺 幸子

初恋の人も子連れや夜店の灯 愛知県 尾崎八重子

月映すてふ大甕に水を張り 広島県 貝原 玲子

入選作【一般の部】木下圭子選

《優秀句》

湯気立てて子牛の生まる冬の月 兵庫県 片山 紀子

《優秀句》

ひとすじの海底からの海女の息 東京都 曾根新五郎

仕事終へ駆足で行く夜学生 岐阜県 白木窓格子

夏帽子握り祈りの列にをり 栃木県 平野 暢行

夏潮や汀子句碑訪ふ島日和 兵庫県 内田 泰代

落し水音を重ねて棚田かな 和歌山県 市ノ瀬翔子

ねんねこの子に知るだけの子守唄 東京都 早坂 洋子

売る畑の野分の土を握りしむ 神奈川県 多田 学友

牛の仔の一步一步に春の泥 兵庫県 水間千鶴子

初電話耳にやさしき母の声 群馬県 酒庭 寛子

入選作【一般の部】鬼本英太郎選

《優秀句》

湯気立てて子牛の生まる冬の月 兵庫県 片山 紀子

《優秀句》

夏帽子握り祈りの列にをり 栃木県 平野 暢行

永き日や路肩に待てる島のバス 兵庫県 光山 恵子

補助輪の取れし自転車雲の峰 大阪府 古田 几城

かなかなや日暮れ濃くなる海の色 兵庫県 菅 礼子

霊峰も玉葱小屋も雨に昏れ 兵庫県 輔老 一完

缶蹴りの缶の凸凹大西日 兵庫県 榎本 純子

白く落ち滝壺に水藍となる 香川県 三宅久美子

サフランの花サナトリウムの隅つこに 大阪府 椋本 望生

網を手に小さき探険隊の夏 兵庫県 武本 敬子

入選作【一般の部】高野さち選

《優秀句》

大橋は春の入口淡路島 大阪府 石橋 玲子

《優秀句》

移り来し鶴を市民に島の春 兵庫県 片岡 橙更

母の日や親の鏡は子でありし 香川県 島谷うた子

初電話耳にやさしき母の声 群馬県 酒庭 寛子

玉葱を吊るして移住三年目 長野県 須坂 大寒

内外へ初荷の走る淡路産 大阪府 太田 省三

島の子の裏表なき日焼かな 埼玉県 人見 正

鱧恐竜淡路の島を揺さぶりぬ 兵庫県 服部 豊康

夢に向け淡路移転の夜業の灯 兵庫県 東面 昭博

いかなごを煮る浦路地の風甘し 京都府 林 游実子

入選作【学生の部】正井良徳選

《優秀句》

名月や静かにおちるすなどけい 山口県 村上 釉莉

《優秀句》

炎天下青の世界へ潜る我 東京都 虎見 貫汰

いつもより優しくのぼる春の月 兵庫県 増田 千捺

風薫る磯の匂いの由良の町 兵庫県 中本 杏奈

探してる浴衣姿を見せたくて 兵庫県 小林 采美

秋の夜先が気になるミステリー 岐阜県 平岩 美留

朝の風空へ散ってる紅葉かな 兵庫県 打越 蒼怡

春の夜寝付けず姿勢を探しけり 兵庫県 本田 悠依

道ばたの鱒はトビの落とし物 兵庫県 安井 陽音

ひさしぶりばあばに会えた夏休み 東京都 野口こころ

入選作【学生の部】三根香南選

《優秀句》

百分の一秒意識し泳ぐ夏 東京都 吉田 朱沙

《優秀句》

いつもより優しくのぼる春の月 兵庫県 増田 千捺

こんべいとうきれいにならべて天の川 埼玉県 加藤 美羽

泣いているきのう作った雪だるま 富山県 島谷 心

むつつめのあさがおちよつとちいさいな 富山県 山 香葉

青空をひっくり返し夏つばめ 香川県 小林 俊輝

紫陽花の色に染まってゆく滴 大阪府 山形 百花

炎天下向かうはひとつ自己ベスト 兵庫県 島瀬 結都

土と汗ぬぎすてられたユニホーム 兵庫県 清水 梧斗

浴衣着て少し背伸びし歩く夜 兵庫県 片山友理恵

入選作【学生の部】高野さち選

《優秀句》

よみかえすせんせいからのねんがじよう 富山県 金森 碧人

《優秀句》

探してる浴衣姿を見せたくて 兵庫県 小林 采美

つららがねとんがっていてささりそう 東京都 湯浅あかり

サイダーの泡ぶくぶくと反抗期 埼玉県 国谷 悠希

ピカピカの歯をかがやかせ一年生 兵庫県 浦瀬 琥凱

もう一語もう一問と夏の陣 東京都 横田 美咲

ずるずると宿題ひきずる夏休み 兵庫県 小林 聖央

母さんにカーネーションを送ります 埼玉県 根岸 葵

いつもより優しくのぼる春の月 兵庫県 増田 千捺

向日葵の向いてる先は青い空 大阪府 竹下 凜菜

入選作【学生の部】木下圭子選

《優秀句》

アイロンをかけてる母に残暑かな 広島県 高升 翔空

《優秀句》

息白し赤信号の長さしる 兵庫県 久米 遼

一度折れ負けじと咲いた日輪草 東京都 塚野 史織

帰り道ずっと隣りに彼岸花 静岡県 狩野 莉那

電線の子連れのはつばめ命継ぐ 静岡県 望月 拓実

じいちゃんとラジオ体そうりモートで 青森県 井野 集太

ぎざぎざのはつばあさがおでかくなる 富山県 竹本 結咲

むつつめのあさがおちよつとちいさいな 富山県 山 香葉

夏休みセミのがつしようコンクール 岐阜県 西 心晴

滝眺め山の力を感じけり 山口県 渡邊 碧維

入選作【学生の部】鬼本英太郎選

《優秀句》

探してる浴衣姿を見せたくて 兵庫県 小林 采美

《優秀句》

桜舞う手に乗せようと夢中な子 広島県 川口 凜果

風りんがしつぽふりふりおどつてる 富山県 大野 小花

げんかんにせみのぬけがらそつと行く 富山県 松本 陽向

かわむきで手がいたくなるくりごはん 東京都 藤巻友里奈

耳塞ぐ弟照らす揚花火 広島県 林 諒羽

坂上る額に当てるラムネ瓶 東京都 佐藤 匠真

ペランダの隅逞しきねこじやらし 兵庫県 山岡 相生

シャツを出し少しいキがる夏の夕 長崎県 小楠 祐介

夏座敷挨拶代わり背比べ 長崎県 前川 美敬

準入選作

〔各選者の入選作の次点として選句された作品を〕
〔「準入選作」として紹介しています〕

【二般の部】

《正井良徳選》

島の子の裏表なき日焼かな 埼玉県 人見 正
 樹下涼し水琴窟の鳴ればなほ 兵庫県 武田 順子
 釣り上げるように玉葱掘り出す児 大阪府 山野 風
 汗ふるやきり場に唸る撥さばき 兵庫県 清水里枝子
 やや風の出で秋晴の歩の軽し 兵庫県 出雲 元子

《三根香南選》

冬紅葉母校に残る忘れもの 大阪府 今仁 徹
 喜寿の吾に務めのありき草の花 兵庫県 米田 静子
 夜神楽や神にも蛇にも村の衆 香川県 もりおかともこ
 潮の香を吸ひて棚田の稲の花 兵庫県 松井ゆう子
 一合の新米を炊く忌日かな 富山県 満保 千里

《木下圭子選》

腕白の帰りし後の端居かな 新潟県 笠原佐千子
 稲妻の照し出したる鬼瓦 兵庫県 向田 康江

【学生の部】

《正井良徳選》

人混みで手が触れあつた藍浴衣 兵庫県 澤田 梨糊
〔淵本実業高校〕
 青春の始まりの夏甲子園 兵庫県 箕田 悠生
〔志筑小学校〕
 剣先の揺れてやまない夏稽古 兵庫県 鳥坪 誠禮
〔淵本実業高校〕
 じよせつするパパのスcoop大きいな 富山県 東 翔和
〔高岡市立伏木小学校〕
 桜散る薄紅色の雨が降る 兵庫県 菊川 嵐丸
〔三原中学校〕

《三根香南選》

人混みで手が触れあつた藍浴衣 兵庫県 澤田 梨糊
〔淵本実業高校〕
 泥だらけ球児の夢はこの夏に 広島県 梅本 彩未
〔福山市立松本中学校〕
 君からの返信を待つ夏の夜 兵庫県 山口 裕未
〔淵本実業高校〕
 ペランダの隅逞しきねこじやらし 兵庫県 山岡 和生
〔蒼園中学校〕
 雲のみねとどけジャンプのパレーポール 兵庫県 上村 蒼
〔神戸市立東須磨小学校〕

《木下圭子選》

日が落ちて残る蚊取りと溜まる灰 埼玉県 高橋 杜和
〔福川市立福川東中学校〕
 さくら散る別れを告げるランドセル 兵庫県 石尾 嘉菜
〔志筑小学校〕

一両の電車に揺るる旅涼し 三重県 前出 公子
 石切の山の残骸秋の風 香川県 静川あさえ
 七年の露けき月日汀子句碑 兵庫県 田村恵津子

《高野さち選》

橋よりも渡船親しや旅小春 兵庫県 渡辺しま子
 大空を桜紅葉が青くする 岡山県 伴 明子
 ままごとのやうな産着や小鳥来る 奈良県 中 博司
 蜘蛛の囲てふ光の碧築きけり 兵庫県 涌羅 由美
 ねんねこの子に知るだけの子守唄 東京都 早坂 洋子

《鬼本英太郎選》

しりもちのついでに遊ぶゑのこ草 奈良県 中 佐代美
 葱坊主それぞれ伸びて喧嘩せず 愛知県 小出 眞澄
 樹下涼し水琴窟の鳴ればなほ 兵庫県 武田 順子
 蛸壺の積みたる浜の草の花 兵庫県 松井ゆう子
 初潮や沼島に立てる神の岩 兵庫県 足達 晃子

《高野さち選》

向日葵のうつむく今日は負け試合 埼玉県 岡安 夏鈴
〔福川市立福川東中学校〕
 見てごらん夜空に咲いた夏の花 兵庫県 宮下 夢叶
〔淵本実業高校〕
 夏の海キラキラしてる呼んでいる 兵庫県 原田帆乃香
〔淵本実業高校〕
 さくらさくさくさくさくほど笑顔さく 東京都 佐藤 遥斗
〔多摩市立多摩第一小学校〕
 夏休み計画だけは優等生 東京都 川尾 一香
〔荒川区立第四中学校〕

《鬼本英太郎選》

夕立後あとといつしよにすぶりする 岐阜県 近藤 昇汰
〔大垣市立崇徳小学校〕
 ハードル走青葉の風にせをおされ 富山県 山 桜香
〔高岡市立伏木小学校〕
 向日葵の向いてる先は青い空 大阪府 竹下 凜菜
〔大阪市立大東小学校〕
 指の先一休みする赤とんぼ 福岡県 越智 啓太
〔大牟田市立田原中学校〕
 ふらここや瀬戸の空へと飛び出しそう 香川県 小林 俊輝
〔久留米大学附設中学校〕

俳句入門講座(令和4年度)

本講座は、俳句初心者に俳句の楽しみを広めるため、俳句の基礎知識(定型・季題・季語・切れ、かなづかい等)や俳句の歴史、俳句の作り方などを楽しく学んでいただくことを目的に3回連続講座として実施しました。

第一回・開催日 令和4年7月29日(金)
 ・内容 講義「俳句の基礎・基本」
 ・講師 師 正井良徳氏
 ・受講者数 36名

第二回・開催日 令和4年8月4日(木)
 ・内容 講義「自然と親しむ」
 ・講師 師 水田むつみ氏(田鶴「主宰」)
 ・受講者数 32名

第三回・開催日 令和4年8月18日(木)
 ・内容 句会体験「さあ俳句をつくってみよう」
 ・講師 師 正井良徳氏、三根香南氏、高野さち氏
 ・受講者数 32名

※いずれも洲本市文化体育館



〈第2回入門講座(講義)〉



〈第3回入門講座(句会体験)〉

俳句出前講座(令和4年度)

本講座は、島内選者が講師となり、講座を希望する島内の高等学校・中学校・小学校に出向き、俳句の基礎や作り方の授業を通じて、子供達に俳句への理解を深めていただくことを目的に開催しており、今年度は三校で実施しました。(講師 正井良徳氏、高野さち氏)

(1) 県立洲本実業高等学校 3年生(40名)
 ・実施日 令和4年9月14日(水)

(2) 洲本市立由良中学校 3年生(15名)
 ・実施日 令和4年9月16日(金)

(3) 淡路市立志筑小学校 6年生(62名)
 ・実施日 令和4年9月22日(木)



〈洲本市立由良中学校での講座〉



〈淡路市立志筑小学校での講座〉

後記

第十四回永田青嵐顕彰全国俳句大会

運営委員会 副委員長 正井 良徳

第一回から十三回まで代表選者を務めてくださった、「ホトトギス」名誉主宰稲畑汀子氏のお力添えによつて、本大会の知名度が全国に広がり、外国からの応募者も出るようになりました。氏の長年のご功勞に対して深甚の敬意と謝意を捧げます。残念なことに昨年二月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

また、本大会の立ち上げからお世話くださった高田菲路氏、貴重なご指導をいただいた稲山忠利氏のお二方が、島内選者を引退されました。長年にわたり、尽力ありがとうございました。今回からは代表選者として、「ホトトギス」主宰の稲畑廣太郎氏、選者として、「九年母」推薦作家の高野さち氏と「わかば」同人の鬼本英太郎氏が就任されました。それぞれの持ち味を發揮され、新風を吹き込んで頂けることを期待いたします。

今回の十四回大会には、一般、学生合わせて七六六七句が寄せられ、多くの素晴らしい作品に出合うことができ、大変嬉しく思いました。応募いただいた方々、お世話くださった方々に厚くお礼申し上げます。

令和五年二月

第十四回永田青嵐顕彰全国俳句大会

投句者及び投句数

【全体】	投句者	投句数
【一般の部】	投句者	九四九名
	投句数	一八六七句
【学生の部】	投句者	三六二六名
	投句数	五八〇〇句

運営委員会委員

・大会名誉会長	永田 秀一
・大会会長	石村 健
・運営委員会委員長	角本 雅宣
・運営委員会副委員長	正井 良徳、三根 香南
・運営委員	木下 圭子、高野 さち
	粟井 光代、塩谷 春美
	片山 紀子、福浦 泰穂
	山内 喜夫、毛笠 錦哉
	勝見 哲、椎木 孝一

淡路島内の永田青嵐の句碑・歌碑



鬼偏師
波の淡路の
訛かな
①
場所：洲本市海岸通
淡路文化史料館前



すずしさや
僧に従ふ
朝の階
②
場所：洲本市上内膳
先山千光寺
山門下展望台



春雨や
波の淡路の
五色浜
③
場所：洲本市五色町島刺浦
県道31号線沿い



なつかしき
水の細さよ
猫柳
④
場所：南あわじ市広田田
南あわじ市役所
旧緑庁舎前



茄子汁
佛をおそれ
住みにけり
⑤
場所：南あわじ市倭文長田
永田青嵐生家



震災忌
吾に古りゆく
月日かな
⑥
場所：南あわじ市倭文長田
観音寺墓地



海晴れて
松風清き丘の上に
正しき者の
墓と呼ばれむ
⑦
場所：南あわじ市倭文長田
観音寺墓地



波消えて
力なくとぶ
千鳥かな
⑧
場所：南あわじ市松原野松原
国民宿舎
慶野松原荘前



若布刈
いづれが近き
撫養福良
⑨
場所：南あわじ市阿万吹上
ホテルニューアワジ
プラザ淡路島前



初時いて
天地に事
なかりけり
⑩
場所：淡路市多賀
伊弉諾神宮外苑



発行日：令和5年2月

発行：一般財団法人淡路島くとうみ協会

〒656-0022 兵庫県洲本市海岸通1-11-1

TEL:0799-24-2001 FAX:0799-25-2521

<https://www.kuniumi.or.jp/>